

第四章 結論

4-1 各章のまとめ

第一章では、環境イメージの定義と、本研究の目的を述べた。

第二章では、分析の方法と流れを述べた。

第三章では、県全体，郡別，市町村別，流域別，時間変遷の各分析をし、その結果を述べた。

第四章では、各章のまとめ、本研究の成果と課題について述べる。

4-2 本研究の成果

和歌山県において、「川」が“清”く，“澄”みわたっているというイメージを出しており、また流量の多い川が多く、流れが“尽きない”というイメージを出しているといえる。また「山」が多く「平野」が少ないため「山」にふれやすい県土であるというイメージを有しているともいえる。

また、紀北、紀中、紀南でそれぞれ「川」、「山」、「海」の認識の比率が異なり、紀北は「川」と「山」が、紀南は「海」の比率が高く、各地域の特色が出ている県土であるといえる。

さらに、「歴史」として古くから信仰されている“高野山金剛峯寺”や“熊野大社”が環境イメージとして認識されていないことから、あまり「歴史」を校歌にしない県土であるといえるのではないだろうか。

そして、自然環境をよく詠んでいる県土であることから、この結果で地域イメージを把握することに寄与し、地域環境を守ることに、少しは役立つのではないだろうか

4-3 今後の課題

環境イメージとしての校歌で、実際がどうであれ、地域の誇るべき要素が、詠み込まれているため、現状に触れないが、生徒や地域の人が、誇るべき要素を重要視しているかを調べてみる必要がある。

分析面で、数量化 類を用いての分析が出来なかったので、数量化 類で分析することも今後の課題である。

参考文献

- 1) 浅見雅子・北村眞一(1996):校歌 - 心の原風景 - , 学文社
- 2) 折原明彦(1997):校歌の風景 - 中越地区小中校歌論考 - , 野島出版
- 3) 北原理雄(1990):校歌に謳われた都市の景観構造に関する研究 - 伊勢平野の 3 都市を事例に - , 第 25 回日本都市計画学会学術研究論文集, p.673-678
- 4) 矢部恒彦・北原理雄・徳山郁芳(1995):小学校校歌に謳われた全国の地域景観イメージに関する研究, 日本建築学会計画系論文集, p.111-122
- 5) 石川貴士他(1993):小学校校歌にみる福岡の環境イメージ, 環境システム研究 Vo.17, p.257-263
- 5) 北原理雄 (1993) :校歌に謳われた都市の景観構造とその変容 柏・八千代・銚子を事例に - , 千葉大学工学部研究報告,p.13-23
- 6) 「角川日本地名大辞典」編纂委員会(1991):角川日本地名大辞典, 角川書店
- 7) ニュース和歌山(1996):データ和歌山 ' 97 , ニュース和歌山